

# Dr's VOICE

## 荒木脳神経外科病院様



### 脳神経外科の「全人的医療」を目指して開業。

当院は、1986年に脳神経外科の専門病院として開業、「全人的医療」という大きな志を持って歩んでまいりました。脳外科では、救急・急性期医療が重要な役割を担っていることはもちろんですが、最初から最後までトータルな医療を提供できる病院作りを目指したい。その思いで、100床の病床を確保して回復期医療までカバーできる診療体制を築き、保健・予防から超急性期・急性期治療、在宅医療や介護といった福祉面まで一貫して、患者さんが本当に安心できる医療提供への体制づくりに取り組んできました。そのために、「チーム医療」や他の医療機関や福祉施設との「地域連携」を積極的に推進、そして質の高い医療を確実にするために、すべての部署で病院機能を高める「委員会活動」を毎年度続けています。全部署が一丸となって、病院を鋭意改善する努力が実を結び、「日本医療機能評価機構」において高い評価をいただき、厚生労働省「DPC 機能評価係数Ⅱ」においては、平成23、24年度と2年連続して広島県内第1位の評価をいただくことができました。

住所	広島県広島市西区庚午北 2-8-7
開院年月	1986年7月
ベッド数	110床
導入装置	SOMATOM Emotion16 (SIEMENS) MAGNETOM Symphony (SIEMENS) Achieva 3.0T X-series (フィリップス) Artis zee BA Twin (SIEMENS)

### 全国初の「地域連携医療IT化」の取り組みをスタート。

現在、厚生労働省が「日本版 EHR」による「どこでも MY 病院」構想を掲げていますが、これに関連して求められているのが、「IT を活用したシームレスな地域連携医療」システムです。当院では、厚生労働省の研究事業としてそのシステム作りに着手し、2012年4月からモデルケースの運営をスタートしました。全国初となる「外部から電子カルテに接続を可能とする共同診療」や、「ホットラインを活用した遠隔画像診療」などの試みを中心に実践します。山間部のドクター不足や、放射線科の専門医不足といった問題の解決、より迅速で的確な診察判断や診療のクオリティアップにつながる結果を目指します。他府県の医療機関からもアクセスできる「広域連携」を含め、迅速・的確に診療データを共同活用できる「地域連携医療IT化」。私たちはこのモデルケースに夢を持って取り組み、患者さんにとってメリットの高いシステムの実現に向かっていきます。



### “医療機器ディーラーの革命児” メディカ・ラインと手を結んで。

こうした当院の医療活動を、見えないところで支えてくれているのがメディカ・ライン。脳神経外科の先端医療機器はもとより、「地域連携医療 IT 化」へのさまざまな新システム構築提案なども、私たちの希望に寄り添って対応してくださいました。私は、メディカ・ラインを“医療機器ディーラーの革命児”と呼んでいます。多くのディーラーがメーカーに顔を向けているなかで、メディカ・ラインはいつも病院の方を向いている。この180度の違いは、お互いの仕事の姿勢に大きくあらわれるものです。親身に合理的にコストを抑えるよう動いてくださる分、私たちは病院の体質や機能を高めるための再投資ができる。そんな素晴らしい循環が、当院には生まれています。佐藤望社長が現在のメディカ・ラインを作り上げるまでには、大変なご苦労があったことと思いますが、優れた人材に囲まれた会社の成長ぶりは、多くの人々の共鳴の証しです。これからも、より上質な医療提供のために、メディカ・ラインと手を結んで歩んでいきたいと思っています。